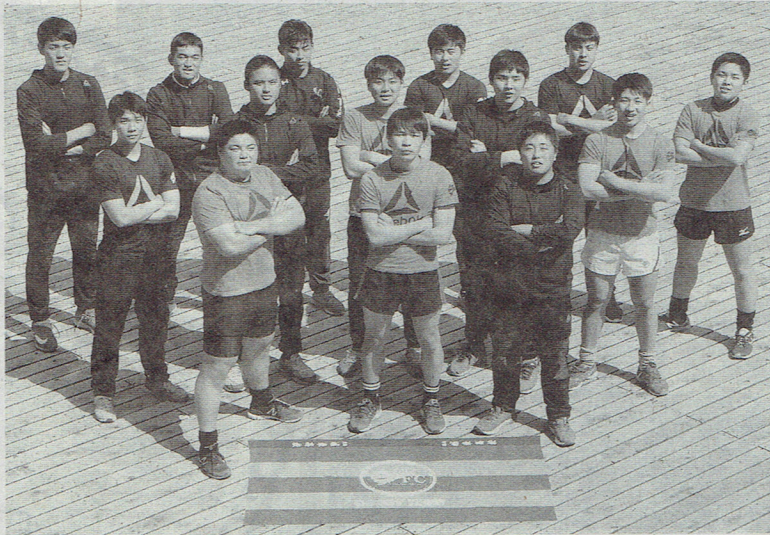


# 「花園で正月」君もトライ

## 城東高ラグビー部 仲間募る

春休みに開かれた全国高校選抜ラグビー大会（埼玉県熊谷市）で、県立城東高が、県勢初の2勝をあげた。城東は冬の全国大会（通称・花園）に2年連続12回出場しており、昨夏の7人制大会では部門別優勝と地歩を固めるが、当時部員は14人。選抜には他部から助っ人を得た。ワールドカップ日本大会が開催される今年、部員らは「ALL OUT（全力を出し切る）」の合言葉に多くの仲間が加わることを心待ちにしている。（浦一貴）



他部から助っ人を得て全国選抜大会で2勝の快挙を遂げた城東高ラグビー部（徳島市で）

今年20回目の選抜は32校が8組に分かれ、各組1位が決勝トーナメントに進む。優勝は桐蔭（神奈川）で、四国代表の城東は高知中央（高知）とともに出場。3年連続3度目だが、未勝利だった。今回はテニス部とサッカー部から3人の助っ人をもらった。

初戦（3月30日）の札幌山の手（北海道）は、昨年惜敗（17対19）した相手。FWリーダーの伊藤優汰選手（17）の「絶対やり返す」との言葉通り、前半リードして折り返すと後半に相手の猛攻にあったが28対22でしりた。

翌日の東福岡（福岡）は花園出場29回、うち優勝6回の強豪で12対97と大敗。三木海芽主将（17）は「個々の能力、意識の高

2019  
4.13

## 部員14人 助っ人得て選抜2勝

さが違った」と苦笑い。ただ、スクラムからのサインプレーで2トライ。スクラム最前列のプロップ白田伊織選手（17）が「しよっちゅう押されたが、意地を示せるスクラムも組めた」と振り返るように全員の自信につながった。

慶応（神奈川）との最終戦では、大型FWに我慢を強いられた。後半、トライで先制されたが、持ち前のボールを大きく動かす試合運びで相手のスタミナを消耗させ、3トライ。ゴールキックも全て決め21対15で2勝目。ノーサイド後、慶応の選手が伊達圭太監督を「少人数でなぜ強いのか」「低いタックルはどうして身につけたのか」と質問攻めにしたという。

三木主将は「少人数だと一体感が生まれやすいし、それぞれの責任感も高まる。だけど、メンバーが多ければ、もっと高いところにいけるはず」。今季掲げる「花園で正月を」は、3回戦進出を意味し、高校ラグビーマンの目標だ。OBの協力で作った動画（[https://www.youtube.com/watch?v=F\\_nhxu5A70&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=F_nhxu5A70&feature=youtu.be)）で仲間が増えるよう呼びかけている。